

フラガール

観賞日 2022年8月22日 上映時間 120分

【概要】

制作 2006年

監督 李相日

脚本 李相日、羽原大介

音楽 ジェイク・シマブクロ

撮影 山本英夫

出演 松雪泰子（平山まどか）、豊川悦司（谷川洋二郎）、蒼井優（谷川紀美子）、富司純子（谷川千代）
岸部一徳（吉本紀夫）、山崎静代（熊野小百合）、徳永えり（木村早苗）、高橋克実（木村清二）



【あらすじ】

昭和40年、炭鉱の町福島県いわき市。石炭から石油へというエネルギー革命が進行し、地元の常磐炭鉱では相次ぐ人員整理が行われる。炭鉱会社がこの危機への打開策として打ち出したのが常磐ハワイアンセンターの建設。ヤマの人たちは建設賛成派と反対派に分かれる。東京からフラダンスの先生、平山まどかがやってくる。まどかは名門SKDの出身。地元の高校生谷川紀美子はさびれる炭鉱町から抜け出す手段としてフラダンサーに応募する。応募した生徒はズブシロの4人のみ。最初は冷めていたまどかも意外なほど熱心な生徒たちを前にレッスンに力が入る。徐々に生徒が増えるにつれてそれらしくなっていく。初めて客を前にした舞台は大失敗に終わるが、経験を積み重ねフラガールの技量も向上。やがて、分裂していたヤマ全体がワンチームになり、一気に建設に向けて走り出す。いよいよ、オープン当日。躍動するフラガールと盛り上がる観客。

「ハワイアンがヤマをつぶすか、ヤマを救うか」。古い炭鉱町に意識革命をもたらした実話の映画化。ヤマの娘たちの友情と成長。その年の日本アカデミー賞作品賞受賞作。笑いと涙、感動の2時間！

【解説】

■ポイント

●常磐ハワイアンセンター（スパリゾートハワイアンズ）

- ・エネルギー革命により不況に陥っていた常磐炭鉱の再生策として、当時行ってみたい外国NO1であったハワイに着目、「常磐ハワイアンセンター」の建設を計画
- ・同センターは1966年にオープン、当初は経営が危ぶまれていたが1970年には155万人の入場客を集めた
- ・25周年を機に「スパリゾートハワイアンズ」に改名。その後、入場客は一進一退を繰り返したが、本作の公開により2007年度には過去最高の161万人の入場客を集めた。



●受賞（第30回日本アカデミー賞）

7部門にノミネートされ4部門で受賞

作品賞、監督賞、脚本賞、助演女優賞（蒼井優）

■見どころ

●実話自体の面白さ

倒産寸前の炭鉱をテーマパークに衣替えして成功させるという実話が面白い

●蒼井優の存在感

公開当時21歳であるが存在感は助演女優賞にふさわしい。

●駅でまどかにフラにより気持ちを伝えるフラガール